

---

# 白紙の地図とP G C

白凧 黝

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

白紙の地図とPGC

### 【Nコード】

N7675Y

### 【作者名】

白凧 黝

### 【あらすじ】

2055年。

世界の地図は白紙に帰った。

終わりの見えない不況が、第3次世界大戦を引き起こしたのである。連合も同盟も無い己の利権のみを求めた2050年から約5年にも及んだ大戦は、世界各国と国境を消し去った。

終戦から約20年後の2075年。

日本は、先の大戦で権力を握ったPMC（民間軍事会社）に因って、

掌握されつつあった。

だが、P M Cが権力を握る前。崩壊していたかつての日本の治安を守っていたのは、P M Cと同時期に設立された、P G C（民間警備会社）だった。

これは、かつての日本のとある街のP G Cの少年少女達の物語。

## プロローグ1（前書き）

初めまして。

白屈 黝と申します。

このような形で、小説を掲載するのは、初めてで、駄文かも知れませんが、生暖かい（？）目で見守って頂けたら幸いです。

尚、私は学生ですので、考査などで更新が遅れる場合がございますが、ご了承下さい。 m（――）m

## プロローグ1

「ーハア、ハアー」

夜の闇に沈む閑静な住宅街。

その街中を息が切らしながらも少女は走っていた。

少女を動かしている原動力。

それは『恐怖』と言う名の感情と死にたくない、と言う思いだった。その二つが今にも立ち止まってしまいそうな少女を必死に支えている。

後ろを振り返ると追手はーー刃物を持った男は、まだ少女を追いつけ続けていた。

「なん、で…」

何かをした訳でも無い。

何時も通りの日常だった。それなのに、何故。

自分が、『通り魔』の餌食として選ばれてしまったのか。

走って、走って、走って。辿り着いたのは、行き止まりだった。

防犯意識の高さからか、行く手を阻む壁は高く、少女に取って乗り越える事など不可能だった。辿り着いたのは、行き止まりだった。

行く手を阻む壁は防犯意識が強いのか、異常に高く、乗り越える事は、不可能に近い。

こんな結末を、運命を、少女は呪った。

壁にもたれて座り込んでしまった少女に男が近寄って行く。

死に間際の走馬灯。

その言葉が本当で有ったと、少女は身を持って体験していた。僅か十数年の人生。

その一コマ一コマが、ゆっくりと流れていく。

男が刃物を持ち直したのが見えた。

少女は目を固く閉じ、来るべき『死』に備えた。

――数瞬の後。

辺りに紅の飛沫が飛び散った。

## プロローグ1（後書き）

コメントなど頂けたら嬉しいです。

## 白紙となった地図（前書き）

プロローグ1の塀の描写が二回重なっていました。  
申し訳ありません。

m ( ) m

## 白紙となった地図

初春にしては冷たく感じる、屋上の乾いた風。

その風に髪を揺らされ、風見一希はうつすら目を開けた。

一希は立ち上がり、体を反らす。パキパキと鳴る体は、長い間一希が其処に座り込んで居た事を示していた。

日の光を吸収しているかの様な漆黒の髪。

制服に身を包んだ体は、高校生にしては、背丈が高めだった。

一希はゆつくりと柵の側に歩み寄る。

この高校――私立月下高校の屋上からは、街が一望出来た。

否――街、ではなく世界、か。

半径10キロの円を描く壁。その中の街が、一希に取っての世界だった。

今から約25年前。

まだ、一希も生まれていない頃――

世界を巻き込んだ最後の戦争が有った。

第3次世界大戦。今ではそう呼ばれている。

事の発端は、たった一回の発砲だったらしい。

テロ行為が激化していた中東、其処のテロリストが治安部隊に対して行った威嚇射撃が命中。

それが発端となったテロリスト対治安部隊の戦いは泥沼化。

次第に戦火は中東各国に飛び火。

いつの間にか、テロリスト対治安部隊の戦いは国家対国家と言う状態となっていた。

普通ならば、この辺りで国連か何処かの機関が仲介し、終戦へと戦局は向かっていっただろう。

だが、そうなる事は無かった。

中東での戦争に乗り、中国、ロシアがあらゆる利権や資源を求め、アメリカ、東南アジアに侵攻した為だった。

2008年頃に起こった金融危機。それは、一時的に収まったものの、完全に収まる事は無かった。

更に、中東で戦争が始まった事で、只でさえ少なくなっていた石油などの資源が枯渇。

経済的な利権・資源を求め、戦争が勃発するのも、無理は無い状態だったらしい。

そして、それに続くかの様に、アジアは勿論、南米、北米、アフリカ、ヨーロッパ…あらゆる国が、互いに宣戦布告し、第3次世界大戦が始まった。

日本も例外では無かった。各国の軍隊の前に自衛隊は壊滅。民間人軍人問わず、死者は計り知れない。

大戦は始まって約五年で終結したが、別に各国が自らの愚行に気が付いた訳では決して無い。軍資金・兵力の消滅、他国の侵略に対する全面降伏、そして、戦略型核兵器の使用など様々な要因で、戦争を行う国家自体が消滅してしまったからだった。

家族や住む場所を失い、生き残った人々は、二度とこのような事を繰り返さないように、と2055年に互いに永世中立を誓い、自衛力以外の一切の武力を放棄した。そして、世界各地に11核兵器の影響が比較的少なかった場所に11五つの都市を作りそれぞれに第1〜第5と都市に番号を割り振った。

国境が消え、世界地図が白紙になった瞬間だった。

だが、国境が消えたとは言っても、集団には、統治者が必要だった。人に人は支配出来ない、とは良く言った物だが、統治者が必要というのは、なんという矛盾だっただろうか。かつて日本であった場所

に位置する第4都市の支配権を手に入れたのは、自衛隊が壊滅した後、日本を辛うじて壊滅から守りきったPMCだった。PMCに因って統治されている日本——第4都市の治安は、表向きには、PMCが統治しているからこそ、治安が保たれていると一般人には思われている。

そう、表向きには。

都市を眺めて居ると、ズボンのポケットに入っていた携帯が震え出した。一希は携帯を取り出すと、ディスプレイを一瞥、受話器のボタンを押して、耳に当てた。

「——何だよ、舞無（むな。）さん。」

「久しぶり、一希君。元気？」

その声には、僅かな笑いが含まれていた。

「舞無さんの声聞くまでは元気だったよ。」

聞くまでは、を強調し、一希は答えた。

「……まあ、そんな事はどうでも良いわ。それで。」舞無の声色が変わった。

例えるならば、冷たく冷えきった、鋭利な刃物。

「『依頼』か？」

それに合わせ、一希も声のトーンを落とす。

「そう。急で悪いと思うけど、今から事務所に来てくれない？」

「分かった。今から行く。」

一希は通話を切った。

そして、鞆を手にする——

柵を乗り越え、屋上から飛び降りた。

## 白紙となった地図（後書き）

テスト期間中に、小説書いて投稿する私は異常…？  
感想など有りましたら、宜しく願いします。

タイトル修正のお知らせ

「白紙の地図と高校生のPGC」

へと、近日中に変更します。

ご迷惑をお掛けし、申し訳ありません。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7675y/>

---

白紙の地図とPGC

2011年11月25日17時51分発行